掲載日:2015年08月06日，面名:社会，記事ID:KIJ20150806_A0029000100531003
(C)沖縄タイムス社

核廃絶 高校生も力に

8・6 広島原爆の日

6日の広島原爆の日を翌日に控えた5日、広島市内では、沖縄の高校生が核兵器廃絶や沖縄戦、基地問題について考えた。次代を担う高校生たちは「同世代にも伝えていく」と平和継承を決意した。

（我喜屋あかね、伊禮由紀子）＝1面参照

原爆ドーム前で核兵器廃絶に向け署名活動をする沖縄尚学高校の生徒＝5日午前、広島市

沖尚6人 署名に汗「平和を」

多くの人が行き交う原爆ドーム前で、沖縄尚学高校地域研究部の生徒6人が核兵器廃絶を目指す署名活動に取り組んだ。

広島県の広島女学院高校、盈進（えいしん）高校との「核廃絶！ヒロシマ・中高生による署名キャンペーン」の一環。集めた署名は国連に提出する。

部長の松本佳純さん(16)は「沖縄と広島、受けた苦しみは一緒だからこそ、つながれるものがある」と話す。

広島での署名活動は8年目。2008年に「中高生平和サミットinHIROSHIMA」を主催したことがきっかけだった。これまでに35万筆以上を集め、4月にはNPT再検討会議議長らに直接手渡した。

署名に協力してくれた被爆者の中には体験談を話し、ケロイドの痕を見せてくれた人もいた。

1年生の金城有芽乃さん(16)は「友達に広島で聞いた話を伝えて、核兵器の廃絶について考えてもらい、平和な世界を目指したい」と期待を込めた。

沖縄戦と基地重ね 普天間3人

全国平和集会に220人

沖縄の現状を報告し、社会のことに無関心ではいけないと訴える普天間高２年の新垣咲里奈さん（左）と與那嶺佳穂さん＝５日、広島国際大学

高校生が核兵器廃絶や平和について考える「第42回全国高校生平和集会」が5日、広島市内で開かれた。国内外から集まった高校生約220人が平和のために何ができるかを学び、議論した。

沖縄からは普天間高2年の新垣咲里奈さん(17)、與那嶺佳穂さん(17)、稲嶺汐里さん(16)が参加し、沖縄戦や基地問題などについて報告。與那嶺さんは「（歴史を）知ることと伝えることをちゅうちょしてはいけない」と訴えた。広島国際学院高校1年の佐貫詩織さん(16)は「今は安保法制の問題もあり、戦争は昔の話じゃない。広島、長崎、沖縄のことも日本全体で考えるべきだ」と話した。

集会の最後には平和の実現に向けたアピール文を採択した。「人間は時に『平和』を口実に戦争を始め、『平和』のために戦争をやめる」と指摘。選挙権が18歳になったことに触れ、「私たち若い世代が世界の未来に希望の光が差すように祈り、行動する」と平和への思いを一つにした。